

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記述(70点)・論述(30点)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問4題・小問70問・論述2問

出題の特徴や昨年との変更点

時代別では、近代から30%程度、原始・古代、中世からそれぞれ20%程度、近世・戦後からそれぞれ10%程度出題された。本学では、原始・古代、中世、近世、近代・戦後からそれぞれ25%程度出題されるのが通例だが、本年度の出題では近世が10%程度と少なく、近代・戦後が40%程度と多かった。

分野別では、政治から50%程度、外交から30%程度、文化・社会経済からそれぞれ10%程度出題された。

その他トピックス

ⅢCでは、表・グラフを用いた問題が初めて出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 <史料>	中世・近世・近代 政治・外交	A 保元の乱(『兵範記』) (1)「南」はやや難だが、本学では京都に関連する歴史地理はしばしば出題されている。(6)「平清盛」は、「(源)義朝」とともに動員された武士であることを手がかりにしたい。(7)「高松殿」は、「禁中」の(注)も参考に、戦乱に勝利した後白河天皇の御所と考えて正解を導きたい。 B レザノフへの幕府返答書(『通航一覽』) (10)「朝鮮」は、鎖国体制下で「往来」のあった国々を想起して解答したい。(12)「ロシア」および(13)「大黒屋光太夫」は、「漂流の人をいぎないで、松前に来りて通商を乞う」から判断できる。 C 斎藤隆夫をめぐる政治史(『回顧七十年』) (19)「南」は、「国策の基準」が大陸進出と南方進出を掲げていたことを想起したい。(20)「五・一五(事件)」は、「犬養健君…父君の面影」から、犬養毅が暗殺された五・一五事件を想起して正解を導きたい。	標準
II	記述 (短文空欄補充)	原始～戦後 総合	①弥生時代の外交、②古墳・飛鳥時代の彩色、③平安時代の学問と大学別曹、④平安時代の浄土教、⑤本地垂迹説と神本仏迹説、⑥中世前期の農業、⑦慶安の変とその影響、⑧享保の改革、⑨大日本帝国憲法下の皇位継承、⑩戦後の教育委員会 基本事項中心の出題であり、高得点が期待される。	やや易

III	記述 (前提文) 〈史料・図・ グラフ〉	中世・近世・近代 総合	A 南北朝～室町期の文化 基本事項からの出題であり、確実に正解したい。 B 近世における「公儀」 オ「征夷大將軍」は、引用史料中の「上様」の官職 を想起して解答したい。 C 近代日本の貿易 ケ「生糸」、コ「茶」、サ「綿織物」、シ「綿糸」は、 幕末と昭和初期の日本の貿易構造についての理解 が問われている。(12) (あ)「徳川家茂」、(12) (い) 「長州」は、「1866年」から長州征討(第2次)を想 起して正解を導きたい。(13) (あ)「世界恐慌」は、 生糸の対米輸出激減、(13) (い)「③(1931年)」は、 金輸出再禁止にともなう円相場の下落による輸出 増大を念頭に解答したい。	やや易
IV	論述	古代・近代・戦後 政治・外交	(1) 平城京の特徴 平城京と藤原京の構造上の相違点について指摘し たうえ、平城京の内部の諸施設について具体的に言 及し、それらの諸施設が中央集権国家の中枢の機能 を担った点などについて論じたい。 (2) 第二次世界大戦末期～1970年代初頭の沖縄 第二次世界大戦末期の沖縄戦、日本の敗戦後のアメ リカ軍による直接軍政下の沖縄および独立回復後 のアメリカによる統治、1960年代～1970年代初頭 における祖国復帰運動の高揚から沖縄返還までの 時期について、段階的に区分して論じたい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ① I～IIIの記述70点、IVの論述30点の配点を念頭に置いた学習計画を立てることが大切である。
- ② 全時代・全分野からまんべんなく出題される。I～IIIの記述式で高得点を確保するために、教科書を欄外の脚注なども含めてマスターしたい。
- ③ IVの論述問題は対策の有無によって得点差がつく。早い段階から学習対策を立てて問題演習を行い、できる限り添削指導をうけること。
- ④ 史料問題は基本的に未見史料から出題されるが、市販の史料集などを利用して日頃から史料に慣れ親しんでおきたい。
- ⑤ 京都大学特有のひねりをきかせた設問対策として、夏期・冬期・直前講習および京大入試オープン・河合出版『入試攻略問題集 京都大学 地理・歴史』などの積極的な利用を薦めたい。